

比較中日「日本語」授業研究

—中国の大学日本語科における『羅生門』調査—

陳 世 華〔南京工業大学外国語学部日本語科〕・上 谷 順三郎〔鹿児島大学教育学部(国語教育)〕

A Comparative Study of Japanese Class in China and Japan: A Case in "Rashomon"

CHEN Shihua · KAMITANI Junsaburo

キーワード：中国、大学、日本語、『羅生門』、調査

1. はじめに

日本では『羅生門』を知らない人はほとんどいないだろう。中河裕裕と吉村裕美(2000)の統計によると、『羅生門』は筑摩書房や右文書院などの24の高校国語の出版社に教材として採用されている。芥川龍之介の『羅生門』と魯迅の『故郷』と中島敦の『山月記』は戦後で一番多く採用されている「定番教材」となっており、日本の中高生の教養的な作品になっていると言える。特に『羅生門』の場合、日本だけではなく、「海外の芥川への注目度も高まり、芥川作品の翻訳は、世界四十カ国を上回り、翻訳数は500に達しようとしている。一種の『芥川現象』の出現である。」(関口安義2004: p. 365)。『羅生門』は中国では映画としても名高い。

本研究においては、日本における『羅生門』に関する作品論と教材論の先行研究、特に教材論の先行研究を踏まえながら、中国における『羅生門』の教材としての採用状況をアンケートし、アンケート結果を考察した上で、『羅生門』を日本語学習者の教材とする価値と可能性を、学生の想像力を鍛えられることや、総合的に学習者のレベルアップができることや、日本語話者とのカルチャーショックが減らせることなどの面から論じてみる。

また、教材として、指導の方法を提案するため、アンケート調査に先立ち、南京工業大学日本語科4年を対象とし、『羅生門』の授業を実践してみた。本論文においても、その実践の内容と結果を考察していく。

2. 日本における『羅生門』に関する文学研究と教材研究

『羅生門』に関する研究は日本だけではなく、世界でも盛んに研究されている。また、『羅生門』に関する研究は、今まで主に文学研究と教材研究の二面から進んできた。本論文においても、日本における『羅生門』に関する先行研究を文学研究と教材研究の二面から考察していく。

2-1. 『羅生門』に関する文学研究

『羅生門』は1915年、雑誌『帝国文学』十月号に発表した。しかし、芥川が新潮社刊の『現代小説全集』のために自ら執筆した年譜の中に「四年、短編『ひよっこ』を『帝国文学』四月号に、『羅生門』を同誌十月号に発表す。世評未だ一言をも加へず」と書いてある。芥川は『羅生門』よりさき、大正三年、『第三次新思潮』に『老年』(五月号)及び戯曲『青年と死と』(九月号)を発表している。『羅生門』は発表された作品では第四作である。この作品の評価は、発表同時と芥川が名声を博したあととはかなり違っている。江口渙のように、「凡ての長所が自然に交錯して現れて居る点で、その準処女作である『羅生門』は推奨措く能はざるものである」とするような溢美の言は、むしろ時を聞いてからのことである。しかし、『羅生門』は芥川にとっては、世評から抹殺された肩身のせまい作品ではなかった。彼が処女小説集に『羅生門』の名を冠したのは、その自信の程を物語るものと見てよかろう。小説集『羅生門』に、漱石の絶賛をあげて世評高かった『鼻』も、期待をもって迎えられた『芋粥』も、表題として冠することをしなかった原因について、長谷川泉(1958:p. 202)は「彼が作家生活の

記念となるべき処女創作集に『羅生門』の名を冠したのは、世評の無言の埋没からの発掘を企図したものであるよりは、矢張りこの作品にかけられた作者の愛着、満々たる自信を読み取るべきであろうと思う」と述べている。宮坂覺 (1989:p. 71) も『羅生門』に関し、「『羅生門』については他評に左右されず好評の可能性を信じていた。」と述べている。今までの『羅生門』に関する先行研究では、ほとんど『羅生門』発表当時の様子に触れている。というも、最初の抹殺から名作になり、『羅生門』に文学価値を潜まないと、最終的に認められないだろう。

『羅生門』の文学価値が認められてから、『羅生門』に関する研究も盛んになってきた。『羅生門』に関する研究に例を挙げればきりが無いが、ここでは簡単に『羅生門』に関する主な研究をまとめてみる。

まず、『羅生門』の冒頭「或る日の暮れ方のことである。一人の下人が、羅生門の下で雨やみを待っていた。」に関する研究である。宮坂 (1989:p. 71) は「しばしば、指摘されているように芥川の作品には日暮れから始まる作品が多い。『蜜柑』(大8)、『杜子春』(大9)、『神神の微笑』(大11)などがそれである。」と述べるように、暮方のはじめと芥川文学とのつながりの研究が従来なされている。

第二に、従来の『羅生門』に対する文学研究では、作品の中の下人と老婆の心理闘争が中心的内容になっている。下人と老婆の心理闘争或いは倫理闘争の内容は、文学研究の場合でも教材研究の場合でもいままでずっと中心的内容になっている。

第三に、『羅生門』を研究するには、今昔物語の二つの話に出典した内容と古典との比較もよくされている。長谷川 (1958:p. 203) は『今昔物語』の中に見出した娑婆苦と野性の美しさと Human Comedyは、なんと巧みに彼の作品の中に換骨奪胎され、新しい光彩を現じたことであろう。」と述べている。従来の研究では、『羅生門』における古典の改造と古典自体の比較が盛んにされてきた。

最後に、何といても『羅生門』の結び「下人

の行方は、誰も知らない」が魅力的である。初出稿においては、「下人は、既に、雨を冒して、京都の町へ強盗を働きに急ぎつ々あった」としていた。定稿のように改稿したのは、二年半余も経過した大正七年七月に刊行した作品集『鼻』所収の際であった。この改稿で、読者に無限な想像空間を作ったといえる。

そのほかに、『羅生門』を創作する目的や『羅生門』におけるエゴイズムや『羅生門』における表現なども研究される対象となっている。

『羅生門』に対し、多くの視点から研究されてきた。その文学価値が認められていると同時に、前述のように、日本高校の教材としてもほとんどの出版社に採用されている。もちろん、一文学作品を教材として採用されるのは、文学価値と教材価値があるためである。

2-2. 日本における教材とする『羅生門』

『羅生門』を発表したのは1915 (大正4) 年のことである。横浜の富士見丘中学高等学校の教員をしている阿武泉 (2004) が、昭和25 (1950) 年～平成14年 (2002) 年までの教科書を調査してまとめた『戦後高等学校国語教科書データベース』によれば、敗戦後の高等学校の教科書での「羅生門」の採録数は、延べ134回にも及び、2位の『鼻』が延べ40回に及び、高校教科書で圧倒的な採録数を占めているといえる。

石原千秋 (2006:pp. 23-24) は『羅生門』の日本における位置に関し、「高校一年生の『定番』教材となっている芥川龍之介『羅生門』で、この小説は教科書に収録する位置までほぼ決まっているのだ。だいたいにおいて、高校一年生用の国語教科書の第一単元は入門的な随筆か軽めの評論が置かれている。そして、第二単元である『小説』のはじめの教材が、決まって『羅生門』なのだ。」と述べている。石原はここで論じたいのは日本の高校における時間的な配慮で、わざと『羅生門』を一年の国語教科書の第二単元に置くということである。氏の話 (2006:p. 24) によれば、「新入生を迎えて四月は忙しいし、慌ただしく過ぎていく。ちょうど第一単元を終えたところでゴールデン・ウィークがやってくる。ホッと一息つくことができる。予習もしたくないほど疲れて

もいる。そこで、連休明けに学習する第二単元のはじめに『定番』中の『定番』である『羅生門』があると非常に助かるのだ。石原が『羅生門』を高校一年の第二単元におく理由を時間的な配慮とするのは、『羅生門』の教材価値を軽視する感じがしないとはいえない。もちろん『羅生門』は日本国語科の「定番」教材として、「教養科目」の一つになっていると言えるが、『羅生門』の教材価値を無視することはできないだろう。教材価値と教材になる要素が欠けると、「定番」教材になる可能性がまずないだろう。

教材に関し、安居總子（日本国語教育学会『国語教育辞典』，朝倉書店，2001：pp. 91-92）は「学習活動を営む学習者と指導者との間にあって、教育の目標を達成するための材料を、『教材』という。（中略）1960年代以降、学習者の学習を重視する教材研究のあり方が問われるようになり、教材は『学習材』と呼ぶべきだという論も出た。」と述べている。さらに、「学習材とは、学習者に、学習を成立させ、国語の力をつけ、国語科の目標を達成するために準備されるもの・ことのすべてをいう。教材になる要素について、氏は「学習材化に当たってもっとも心を配りたいのは授業構想時である。学習材とするものが、学習者の学習を成立させられるか、学習内容・指導目標達成に応じられるか、育てたい言葉の力が考えられ、そのための言語行動や言語行動場面が設定されるか、個々の学習者がテーマや目標を自覚して学習を進めていくのに適した学習コミュニケーションの場への見通しのなかにあるか、を考慮するのである。」と述べている。西郷竹彦（1989：p. 17）も教材に関し、「優れた教材とは何か。まず少なくとも、読者の想像力を刺激して、そこから読者が豊かなイメージを創り得るものでなければならない。そこからそのイメージがふかい意味と、ゆたかなイメージ（ということは人間の真実と美を表現するもの）とふかい意味を生みだすものが、良い文芸教材ということになります。」。

教材になったあと、『羅生門』に関する授業実践も盛んになってきた。伝統的な授業方法として、『羅生門』における下人と老婆の心理闘争を

めぐり実践があるし、結びのところが学習者に想像させ、下人のこれからの運命をめぐり、文章を書かせる実践もある。また、井上雅彦（2001）のように『羅生門』をディベートの授業方法で取り扱う実践もある。

以上の先行研究と実践からみれば、『羅生門』は教材としての価値があるからこそ、多くの出版社に採用され、「定番教材」と「教養教材」になっている。よって、日本語学習者として、日本語話者とコミュニケーションするためにも、『羅生門』を教材とする必要がある。また、日本における『羅生門』を文学研究と教材研究の面から考察した結果、一作品として、いろいろな授業方法を構築する可能性もある。『羅生門』を日本語学習者の教材として採用される可能性と価値を研究する前に、中国の大学日本語科における採用状況をアンケートしてみた。

3. 中国における『羅生門』を教材とする状況

今まで主に日本における『羅生門』を教材とする状況を分析してみた。それでは、中国における『羅生門』を教材として採用される状況はどうなっているだろう。本研究では、筆者は中国全国の日本語学科を持つ大学を対象とし、アンケート調査をした。

3-1. 調査対象と調査方法

本研究では中国教育部が公布したデータに基づき、日本語科を設置する中国の大学を対象とし、アンケートを行った。アンケートの内容を分析する前に、まずアンケートを行う時間と方法を簡単に整理する。

アンケートの時期：2007年4月15日～8月1日

アンケート方法：①日本語科を持つ全国の大学に手紙でアンケート用紙を出す方法。②南京における大学の日本語学科長に集会やE-MAILで直接お願いする方法。

アンケート対象数：141校

アンケート回収数：75

アンケート回収率：53.2%

アンケートの回収率を確保するため、アンケート用紙を出すとき、返信用封筒を同封していた。

回収率が高くはないが、回収地域からみれば、全国の様子が把握できるといえる。回収率が高くない原因が次のいくつかあると考える。

①日本企業の中国進出が近頃ブームになっているし、北京オリンピックと2010年の上海万博があるため、多くの大学日本語科の設置は最近のことであり、日本語科の指導者やシラバスの構築がまだ不十分なところがある。例を挙げてみると、山東省において日本語科を設置する大学数は20であるが、そのうち、2000年以後に設置されたのは16である。

②普通郵便であるため、広い中国では郵送途中にミスが出る可能性もある。

今回のアンケート調査の回収率は53.2%だけであるが、全国の大学日本語科における『羅生門』を教材とする状況が大体把握できたといえる。次にアンケート調査の内容を紹介し、結果を考察していく。

3-2 調査内容と結果考察

教材としての『羅生門』採用状況を把握するため、以下の質問項目を設定した。本論文においては、質問項目ごとに設定趣旨を説明しながら、調査結果を考察していく。

① 貴日本語科の歴史は何年ですか。

中国の大学における日本語科の歴史を調査する質問である。

回収した答えでは、結果は次のようである。

1年：7校	2年：0校	3年：7校
4年：12校	5年：4校	6年：4校
7年：5校	8年：5校	9年：0校
10年：2校	11年：1校	12年：2校
13年：3校	14年：3校	15年：1校
16年：0校	17年：1校	18年：0校
19年：0校	20年：1校	21年：1校
22年：0校	23年：0校	24年：1校
25年：1校	26年：0校	27年：0校
28年：2校	29年：0校	30年：1校
31年以上 (31年～47年) 8校	無回答：2校	

以上の回答からみれば、日本語科の歴史が10年以内になっているのは半分以上の48校である。中国では、文化大革命があったために、1976年までの十年間の大学教育が中断され、2007年は大学入

学制度回復30周年になっている。1977年から大学入学制度が回復し、全国の総合大学と外国語大学で日本語科がだんだん設置されたが、設置する大学数は多くはない。が、この10年で、総合大学はもちろん、工業大学や農業大学のような単一大学でも日本語科が設置されてきたようである。

② 貴日本語科では、高学年（三年、四年）で『羅生門』を教材として使っていますか。

A 使っている B 使っていない

『羅生門』を教材として使っているかどうかの質問である。

回答によると、『羅生門』を教材として使っている大学数31校で、使う予定がある大学数は2校である。また、『羅生門』を教材として使っていない大学数は32校である。

以上の回答から見れば、全国の大学日本語科において『羅生門』をなんらかの形で教材とする大学数はまだ半分しかない。

教材として使っても、精読か汎読か文学選択読みかによって、授業の方法も違うはずである。

『羅生門』を教材として使う場合について、次の③～⑥までの質問を設定した。

③ どういう形で使っていますか。

A 精読教材 B 汎読教材 C 課外読み物 D その他 ()

先にも述べたが、『羅生門』を教材として使っても、授業項目によって、授業方法が違うはずである。こういう質問を設置し、『羅生門』をどうい科目で取り扱うかを調べたい。

アンケート結果からみると、73校の中で、「精読教材」として使っているのは9校で、「汎読教材」として使っているのは2校で、「課外読み物」として使っているのは3校で、1校は使うかどうかを迷って、無回答であった。あとの59校は「文学選択読み」の授業項目で取り扱われている。

精読教材の場合、語彙や文法の説明はもちろん、文学作品の鑑賞も行おうわけである。しかし、「文学選択読み」の授業科目で取り扱われるとき、むしろ日本文学史における芥川を紹介するためであろう。

④ 日本人の先生が授業していますか、中国人の

先生が授業していますか。

A日本人先生 B中国人先生 C学生自分で独学 Dその他()

『羅生門』を教材として、日本人指導者と中国人指導者によって、指導する方法と視点が少し違うはずである。

アンケートの結果からみれば、日本人指導者が『羅生門』を教材として使うのは8校で、学習者に独学させるのは1校で、残る65校は中国人指導者が『羅生門』を教材として使っている。

⑤ 『羅生門』を教材とする意義(価値)を述べてください。(多肢)

- A 古典への親しみがある。
- B 文末の「下人の行方はだれも知らない」の部分は興味深く、学生の想像力が生かせる。
- C 関西弁らしい言い方が面白い。
- D 内容(価値観、心理描写など)が面白い。
- E 芥川龍之介の代表作だから。
- F その他(教材とする価値を具体的に述べてください)

本質問を設定するのは、主に先行研究を参考に、自分の授業実践に基づき、『羅生門』を教材とする意味を調べるためである。指導者によって、『羅生門』を教材とする価値に対する見方が違うと思うため、本質問は多肢選択にしているし、指導者の自由な見方を発表する「その他」の欄も設定した。

アンケート結果からみると、『羅生門』を教材として採用する32校の中で、答えは次のとおりである。

- Aを選択するのは10校
- Bを選択するのは3校
- Cを選択するのは4校
- Dを選択するのは18校
- Eを選択するのは24校

Fを選択するのは1校だけで、答えは「構造や表現も面白い。さらに映画『羅生門』や他の作、例えば『藪の中』へも展開することができる」になる。

以上の回答から見ると、指導者が『羅生門』の文学価値を重要視している(D)に代表されるように、明らかに芥川文学を紹介するために、『羅

生門』を使っているようである。言い換えると、『羅生門』について、文学史における価値、或いは芥川文学における価値は重要視しているが、教材としての価値は重要視していないようである。

⑥ 『羅生門』を教材として授業するとき、難しいと感じるところを教えてください。(多肢)

- A 古い言葉がある。
- B 老婆と下人の会話部分の説明(文法として)が難しい。
- C 文末の「下人の行方はだれも知らない」の部分は捉まえにくい。
- D その他(内容を具体的に教えてください)

この設問は『羅生門』を教材とするとき、指導者にとって、どんなところが難しいかを調べたい調査である。アンケート結果からみると、『羅生門』を教材として採用する32校の中で、答えは次のとおりである。

- Aを選択するのは13校
- Bを選択するのは12校
- Cを選択するのは5校
- Dを選択するのは6校

無回答も4校あるが、全部高学年をまだ持っていないくて、授業実践したことがないため、答えられないようである。それに、1校は「難しいところなし」と書き添えている。『羅生門』を精読教材として使う場合、言葉を説明する必要がある。しかし、『羅生門』においては、古い言葉があるため、中国人指導者はほとんど現代共通語を習ってきているため、古い言葉に対する説明に自信がないだろう。回答ではA Bを選択する大学数が多いということもこれを証することができるだろう。また、Dを選択したものには、以下のような答えが出ている(答えはそのまま写す)。

「芥川の代表作として、文学上の鑑賞は難しい。あらすじはそんなにおもしろくないからかもしれないが、学生が興味がないようです。」

「『あざ』が頻出するのはなぜか？」

「芥川氏文学に流れているユニークな寓意・思考を学生たちに分かりやすく解釈するのはわりと難しい」

「『羅生門』で使っている言葉遣いと他の文章(氏の)との比較分析をする場合。」

「全体として、やはり暗い感じがあると学生のほうが思っている。好ききらいがある。」

「餓死になるか盗人になるかというストーリーは強いられる(無理な)設定らしい。」

以上の考察から分かるように、中国の大学日本語科において、『羅生門』を教材として使う大学は半分しかないが、教材として使ってもほとんど文学史を説明するため、或いは芥川文学を説明するため、『文学選択読み』という授業科目で取り扱われている。また、授業実践からみると、とくに難しいと感じるのは言葉の説明である。それでは、『羅生門』を教材として使っていない大学の調査結果を分析していく。

次の⑦～⑧までは②でBを選んだ方のみ回答してください。

⑦ 貴学科で『羅生門』を教材として使っていない理由は何ですか。

- A まだ高学年の学生がいない
- B 老婆と下人の会話部分の説明が難しい
- C 教材としての価値が薄い
- D 使っている教科書に収録されていない
- E エゴイズムの内容は道徳思想教育に合わない
- F その他(原因を具体的に教えてください)

日本語指導者として、芥川文学の代表作の『羅生門』を知らない人はいないだろうが、なぜ教材として取り扱われていないかを調べる設問である。アンケート結果からみると、『羅生門』を教材として採用していない32校の中で、答えは次のとおりである。

- Aを選択するのは9校
- Bを選択するのは1校
- Cを選択するのは5校
- Dを選択するのは18校
- Eを選択するのは0校
- Fを選択するのは6校

以上の考察から見ると、『羅生門』を教材として使っていない原因は主に教科書の制限のようである。教科書に収録されていないため、時間的には授業実践できないようである。そのほかに、Fには次のような答えが出ている。

「芥川には他にもいい作品がありますから」

「暗いので避けた。『鼻』のほうを選んだ。学生の反応も『鼻』のほうがよかった」

「学習計画の中に入っていない」

「芥川の作品の中で『鼻』を教材としているため」

「学生の専攻は日本語+ソフトウェアですので、『羅生門』のような内容にたずさわる機会はほとんどない」
などである。

⑧ 貴学科ではこれから『羅生門』を教材として使う予定がありますか。

- Aある Bない C分からない Dその他
- Aを選択するのは5校
- Bを選択するのは9校
- Cを選択するのは15校
- Dを選択するのは3校

調査の内容から見れば、これから『羅生門』を教材として使う予定がある大学はただ5校である、その5校はほとんどまだ高学年を持っていない大学である。これから使う予定がない、或いはこれから使うかどうか分からない大学は多い。Dを選択した大学は2校あるが、1校は「時間がありませんでしたら、『羅生門』をも教材として使ってみようと思っています」という答えを出している。

アンケートの最後の設問であるが、次のようである。

「最後に教材として『羅生門』を扱うことについて、何でもいなので、書いていただければ幸いです。」

この設問に対し、以下のような答えが出ている。

「『羅生門』を教材として使用すれば、教室内の勉強時間が少ないと思います。課外で読むことが必要です」

「視聴教材として、映画を見せて、それについて、討論なり、質疑応答な授業形式には、使用できると思います。ところで、貴大学には、芥川以外の作品(『鼻』など)は扱いませんか。私は『羅生門』より『鼻』などが教材としては優れていると思います」

「日本文学の教材として、芥川の文学を紹介するために、芥川の『鼻』を選んだほうが良いと思

ますが。」

「この教材を今年の9月からの新学期から使うようになっています。具体的な経験はまだありません。でも、芥川龍之介の代表作として、どうしても学生に紹介してやりたのです。」

「私の大学は『羅生門』を教材として『日本文学鑑賞』という授業に出る。学生たちはみんなその大体的内容がわかるけど、具体的なのは知らない。日本語の教師としての私は『羅生門』の心理描写などが面白いと思って、学生にわかるまで説明しなければならぬ。」

「『羅生門』という小説は確かにすばらしい文学作品ですが、日本文学という授業の一環として、学生に教えるのはもう十分だと思います。わざわざそれを教材として教える必要がないと思います。」

「『羅生門』の内容によって、その時の日本の社会のことがわかる。中国の魯迅先生の作品に似ているところが多いから。」

「芥川が明治・大正期の市民作家の代表として、複数の力作をこの世に残したんですが、古典または中国へその創作の素材を求めるのは、氏の得意なありかたになっているようです。で、テキストとして、これを選ぶ場合も、学生たちへ中日比較という示唆を与えたほうがいいのかもかもしれません。」

「『羅生門』を教材として使う理由はあまりわからないのです。」

「『羅生門』は確かに日本文学に優れたものだが、教材としてはちょっと言葉の使いが古すぎるとか、理解しにくいところがありますから、いいとは思いません。ただし、日本文学鑑賞の授業で学生に推薦して、読ませる値打ちがあると思います。」

アンケートの答えから見れば、中国の大学日本語学科における『羅生門』を教材とする採用率が非常に低いといえる。まれに採用される大学があっても、『文学選択読み』という科目で接するが、『精読』科目にほとんど取り扱っていないようである。

また、『羅生門』に対する自由談からみれば、中国での日本語指導者は教材開発理論に対する認

識がまだ浅く、日本現行教材に対する理解が少ないといえるだろう。

4. 授業実践

アンケート調査に先立ち、筆者は2006年9月18日、20日、22日にわたる三回の6コマ（1コマは45分である）で『羅生門』の授業実践を行った。授業対象は当時の四年生（2003年度入学）一組の32人。6コマで授業をするのは時間的にきつし、教科書に抄録されていないからである。『羅生門』の授業をする前に、『羅生門』の本文をコピーして学習者に配り、難しい言葉を自分で調べ、文章を通読するように、事前予習を宿題として指示した。筆者の授業実践における『羅生門』授業のねらいと内容は次のとおりである。

（一）学習指導のねらい

1. 芥川文学の特徴と近代日本の優れた小説に興味を持ち、小説の要素を読み取る。

前にも述べたように、黒澤明の映画によって世界的にも知られた、この『羅生門』の題名を知らない日本人も中国人もあまり多くないだろう。さらに、『羅生門』を通して、芥川龍之介という作家名を知らない人も多くない。『羅生門』といえば、芥川龍之介が思い出せる、芥川龍之介というと、『羅生門』が思い出せるほどである。よって、『羅生門』の学習を通し、芥川文学を理解する重要な手がかりにもなっている。

また、小説として、『羅生門』は典型的な短編であるといえるだろう。この小説を読んで、虚構の世界に入りながら、小説の5W1Hという要素を身につける。

2. 作品の表現技法を理解する。

『羅生門』において、下人と老婆の心理闘争の描写が注目されてきた。このほかに、下人と老婆との対比的な外貌描写も注目すべきところである。

3. 作品の「読み」と「書くこと」との関連授業を通し、学習者の総合的な力を育成する。

小説といえば、鑑賞する授業になりがちである。先行研究からも分かるように、今の国語授業は学習者の鑑賞力も求めているが、思考力も求められている。作品の「読み」を通し、「読むこ

と」と「書くこと」と「聞くこと・話すこと」との総合的な授業で学習者の総合的な力を高めていきたい。

(二) 学習指導の展開 (表1 参照)

(三) 授業実践の考察

授業対象は南京工業大学外国語学部日本語科四年生である。授業の展開は日本の先行文献を参照しながら、南京工業大学外国語学部日本語科学習者のレベルに合わせて展開した。授業展開は

(二) の表のようであるが、ここでは、授業内容を考察してみる。

第1時に関する考察：

南京工業大学における日本語指導方法は、1、2年のとき、文法指導を中心にし、3、4年のとき、総合的な応用能力の育成を中心にしている。今度の実践は四年生であるため、学習者が一定の独学能力を身につけているといえる。『羅生門』を事前に予習するよう指示したため、第1時の授業展開では、言葉や文法を説明せずに、直接小説構成要素を説明した上で、『羅生門』という小説を使い、小説要素を確認する。特に日本でよく知られる物語世界の5W1Hの要素の説明が学習者によく受け止められているようである。さらに、小説だけではなく、新聞記事、小説の要約などを書く時も5W1Hの要素が大切であると説明した。さらに、日本文学史における芥川龍之介をも紹介した。

第2時に関する考察：

第2時の授業では、段落わけをしながら、老婆と下人の心理闘争と変化の過程を確認しながら進んだ。文学研究においては、老婆と下人の心理変化が注目されてきたが、教材として『羅生門』を説明する時、しいて指導者の意志に従わせるのではなくて、学習者自身の考えを尊重する方法で進んだ。また、本文の内容を確認すると同時に、文中における描写も説明した。本実践では特に老婆と下人の外貌に対する対比的な描写に注目した。

第3時に関する考察：

第3時の授業では、発展的な授業を念頭に置いて、進んだ。小説の結び方、特に芥川文学の結び方を紹介した上、日本の学習指導要領の内容を確認し、『羅生門』を教材とする価値を指導者の見

方で説明した。さらに、学習者の思考力と想像力を鍛えるため、第3時で『下人の運命』という題目で、レポートを書かせた。回収した29人分のレポートの中で、下人の運命について次のような見方が出ている。

- ・下人がなくなった (12人)
- ・下人が盗人になった (6人)
- ・下人が自分の罪を反省して、新しい生活をつかった (5人)
- ・下人が奇遇で女の子と結婚して、幸せな生活をしている (1人)
- ・下人が羅生門に戻って、生活のため、老婆と一緒に死人の髪の毛と抜けた (1人)
- ・下人が和尚になって、自分の罪を反省する (1人)
- ・下人が狂人になった (1人)
- ・下人がぼんやりして、転んでから、石とぶつかるため、意識不明になった、さめてから自分が裸になった (1人)
- ・下人がヤクザのボースになった (1人)

学習者にレポートを書かせるとき、どんな情報も与えずに書かせた。そのうちの3人が自分の見方のような小論文の形で書いたが、ほかの人は全部物語を続けて書く形で書いた。レポートからみると、「下人がなくなった」とする学習者が12人いるが、なくなる原因がそれぞれであるが、主につぎのようである。

- ・飢え死に
- ・罪意識で自殺
- ・強い人にやられて殺された
- ・老婆の息子に発覚して殺された
- ・盗人としての名が高くなり、将軍に処罰され、殺された

などである。レポートからみると、文法における不自然の表現もあるが、学習者の思考力と想像力を十分に鍛えたといえる。

最後に、『羅生門』を学習してから、学習者に次の3つの質問を出して、学習者の感想を書かせた。回収した解答用紙は32人分である。

- ・問1. 『羅生門』について、難しい点はどこですか
- ・問2. 『羅生門』はわれわれ (日本語学習者)

の教材とすれば、ふさわしいか、ふさわしくないか

・問3.『羅生門』を通した芥川文学の特徴を述べなさい

問1に対し、「心理変化の理解」「老婆と下人の対話」「結局がない」「死人のものをとるのは不思議」（中国では死人のものをとらない慣習があるため）などの答えが出てくる。

問2に対して、「ふさわしい」と答えるのは22人で、「ふさわしくない」と答えるのは7人で、残りの3人は「ふさわしいところもあるが、ふさわしくないところもある」と答えた。

「ふさわしい」と答える理由は主に次のようである。

・日本の高校生の教養科目であるため、日本語学習者として学習すべきである。

・日本の歴史や社会が理解できる教材である。

・芥川の代表作であるため。

・この作品を通して、学習者の想像力が鍛えられる。

・この文章をきっかけに、自分の善悪観をもう一度考える。

「ふさわしくない」と答える理由は主に次のようである。

・小説における時代背景や心理描写は現実とはずれている。

・心理描写が細かいが、小説としての鑑賞価値がない。

・「善」と「悪」をどう選択するかの問題は学習者に悪影響を与える可能性がある。

・単語や表現が古い。

・文中における人物の動作や性格や心理変化が怪しくて、理解できない。

・エゴイズムの理念が入っている。

「ふさわしいところもあるが、ふさわしくないところもある」と答えるのは次のような理由である。

・下人の生活態度がよくなり、学習者に悪影響を与える可能性がある。しかし、人間性をよく考えさせる作品である。

・内容がいいが、表現のほうが実生活であまり使わない。

学習し終わった後、学習者の率直な意見を調査した3つの質問である。「ふさわしい」と答えるほうが多いが、「ふさわしくない」と答えるのも少なくない。日本語学習者の教材としてあまりふさわしくないところ、あるいは難しいところをどのように改善するかは、今後の日本語教育者の考えるべき問題である。

本実践では、筆者は総合的な授業方法で授業を展開することを念頭に置いていた。文学作品として、ただ文法と言葉を説明し、文章を鑑賞するだけでなく、授業するとき、文学の「読み」と「書くこと」と文学史との総合的な授業をしてみた。

5. まとめと今後の課題

中国における大学の日本語科を対象とし、『羅生門』を教材とする状況の調査からみると、中国の日本語教育では『羅生門』を教材とする大学は半分しかない。そのなかで、ほとんどは芥川文学の代表作であるために「文学選択読み」という授業科目で取り扱われている。

筆者の授業実践からみれば、『羅生門』を教材とし、難しいところはあるが、「書くこと」と「話すこと」などの結合で、多角的で総合的な授業をつくる可能性がある。また、小説の典範として、学習者に小説の要素を説明するいい教材であるといえるし、レポートなどの形で学習者の想像力と思考力を鍛えることができる。

しかし、アンケート調査と授業実践からも分かるように、日本語学習者の教材として、今後次のような課題を考えていかななくてはいけないだろう。

①日本語指導者の共同授業の可能性

日本語学習者の教材とする『羅生門』に対し、指導者の専攻によって、指導方法がかなり違うはずである。文学専攻の指導者は『羅生門』の文学価値を重んじて、文法の説明が苦手になるが、文法専攻の指導者は『羅生門』における関西弁を現代訳で訳す授業方法をとるかもしれない。よって、違う専攻の指導者の共同作業で『羅生門』を説明するチャレンジが望ましい。

②教材開発の問題

アンケートから分かるように、日本語指導者は

主動的に教材を開発する意欲が弱く、現行教科書に限って授業する傾向があるようである。日本教育者として、積極的に日本の現在の教材論を研究し、現行教科書の様子を了解して、多様な授業方法で授業する態度が求められる。

以上の問題意識を持ち、これからの日本語教育方法を探究していく。

参考文献：

1. 宮坂覺『Spirit芥川龍之介「作家と作品」』有精堂出版株式会社, 1989
2. 長谷川泉『近代名作鑑賞』至文堂, 1958
3. 阿武泉『戦後高等学校国語教科書データベース』, 2004
4. 中河督裕・吉村裕美『高等学校の国語教科書は何を扱っているのか』京都書房, 2000
5. 石原千秋『国語教科書の思想』ちくま新書, 2006
6. 文部省『高等学校学習指導要領解説 国語編』教育出版株式会社, 2000
7. 海老井英次『『羅生門』の黄泉難さ——その構造と「作者」の係わり』佐藤泰正『芥川龍之介を読む』笠簡書院, 2003年
8. 井上雅彦『ディベートを用いて文学を〈読む〉』明治図書, 2001
9. 日本国語教育学会『国語教育辞典』朝倉書店, 2001
10. 西郷竹彦『文芸学辞典』明治図書, 1989
11. 関口安義『芥川龍之介 その知的空間』至文堂, 2004

表1：学習指導の展開

時 限	目 標	学習活動	備 考
第1時 (1・2コマ)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 芥川文学と日本近代小説に興味を持つ。 小説とはなにか。 小説の要素を知る。 作者を知る。 2. 『羅生門』の構成をとらえる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本近代小説に興味をもつ。 ①小説の特徴を振り返る。 ②小説のあらすじをまとめる方法(5W1H)を紹介する。 ③芥川について、概略を知る。 2. 『羅生門』の構成をとらえ、あらすじをまとめる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 『羅生門』をコピーし、事前に配って、予習することを指示した。 2. 国語便覧を使い、日本近代文学史と芥川文学を簡単に紹介する。
第2時 (3・4コマ)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 下人と老婆との心理闘争を吟味する。 2. 下人と老婆の外貌描写を比較して、作品を鑑賞する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 羅生門という舞台がどのように描かれているか。 2. 下人の心理と羅生門とのかかわりをとらえる。 3. 下人の心理変化と老婆とのかかわりをとらえる。 4. 下人と老婆の対比的な外貌描写に注目する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. この授業で、比較しなら板書する。 2. 段落わけをして、各段落間の関係を知る。
第3時 (5・6コマ)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小説(特に芥川文学)の結び方を紹介する。 2. 小説の結び方と学習指導要領とのかかわりを紹介する。 3. 総合的な授業方法を検証する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小説の結び方を紹介する。 2. この小説を教材とする価値と日本学習指導要領とのかかわりを知る。 3. 学習者に「下人の運命」という題目で小説を書き続けさせる。 4. 『羅生門』を教材として学習者の感想を書かせる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本における『羅生門』を教材として採用する様子を紹介する。 2. 日本の高校学習指導要領の内容を紹介する。